

令和5年度 第14回練馬区介護保険運営協議会 会議要録	
日時	令和6年3月19日(火) 午後5時30分～6時15分
場所	練馬区役所本庁舎5階 庁議室
出席者	(委員19名) 内藤委員、岩月委員、腰高委員、嶋村委員、関委員、高橋委員、竹中委員、横山委員、大羽委員、関口委員、岩瀬委員、松田委員、高原委員、中村委員、加藤(雄)委員、長谷川委員、齋藤委員、加藤(均)委員、青木委員 (区幹事5名) 高齢施策担当部長、高齢社会対策課長、高齢者支援課長、介護保険課長、地域医療課長
傍聴者	1名
議題	(1) 第9期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定について (2) 保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金における令和6年度評価結果について
資料	1 次第 2 委員名簿および座席表 3 資料1 第9期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 4 資料2 第9期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 概要版 5 資料3 保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金における令和6年度評価結果について [参考] 1 介護保険状況報告(令和5年2月分)

1 開会

【会長代理】

ただ今より、第14回練馬区介護保険運営協議会を開催します。それでは、委員の出席状況、傍聴者の状況の報告、および配付資料の確認を事務局からお願いします。

【事務局】

<出席状況、傍聴者の状況の報告、配布資料の確認>

2 議題

【会長代理】

それでは、議題(1)、「第9期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(以下、第9期計画)の策定について」に入ります。資料1・2に基づき、高齢社会対策課長から説明をお願いします。

【高齢社会対策課長】

<資料1「第9期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」

資料2「第9期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画 概要版」の説明>

【会長代理】

ご意見はありますか。

次に、議題（2）、「保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金における令和6年度評価結果について」に入ります。資料3に基づき、高齢社会対策課長から説明をお願いします。

【高齢社会対策課長】

＜資料3「保険者機能強化推進交付金・介護保険保険者努力支援交付金における令和6年度評価結果について」の説明＞

【会長代理】

ご意見はありますか。

【委員】

保険者機能強化推進交付金を介護保険料に反映する旨の説明がありましたが、介護保険給付費準備基金との関係について教えてください。

【介護保険課長】

保険者機能強化推進交付金については、介護給付費を支出する財源となります。達成状況の評価した点数が高くなれば交付金を多く貰えますので、想定より多く貰えた部分は、介護保険給付費準備基金に積むこともできます。

そうしたことから、区ではより多くの交付金を獲得できるよう取り組んでいます。

【会長代理】

他にご意見はありますか。

案件は以上となります。それでは最後に、各委員よりご挨拶をお願いいたします。

【委員】

これからもますます困難な状況になっていくかと思いますが、皆さんのお力を吸収して、よりよい介護保険になるのを見守っていきたいと思っています。

【委員】

私は地域福祉パワーアップカレッジ練馬の2期生として、「2025年超少子高齢化に向けて」という卒業企画提案を行いました。団塊世代の方々に認知症予防、介護予防の意識改革をしなければ、大変な時代になると思っていました。危機感を持ちながら、私なりに色々な案、インセンティブを、区や議会の方々に聞いていただきました。元気高齢者を増やすためにできること、私自身なるべく長く元気高齢者でいることを目標に活動しています。

【委員】

先日、経済雑誌で介護、異次元崩壊という特集が生まれ、その中で様々な問題が掲載されていました。社会状況の変化に応じて、介護保険制度も常に進化することが重要だと思うので、この協議会は

その一翼を担っているのではないかという気がしました。

【委員】

この会議に出席させていただいて、様々な介護事業に携わる皆様方の貴重なご意見をうかがい、大変勉強になりました。介護保険の制度疲労の問題について、超高齢化が一層進む中で財政比率をどう確保するか、いろんな難問があるかと思います。そんな中で、個人的には、やはり暫定的にせよ公費の負担増加というものも必要ではないかと思います。

いずれにしても、この介護保険制度を持続可能なものにするために、一区民の立場からこれからも引き続きできることはやっていきたいと思っています。

【委員】

介護保険についていろいろ調べてみると、要介護1になると3食付きの施設に入れることがわかりました。自身が住んでいる家の家賃より施設の方が安いという状況には疑問を感じています。だから、いずれこの介護保険制度は行き詰まるのではないかと感じており心配しています。

【委員】

最近、新聞で訪問介護の基本報酬が4月から引き下げられるという記事を読み、大変驚いております。この会議に参加して、介護職に当たる方々の待遇改善の重要性を非常に強く感じております。介護保険運営協議会を通じ、介護職を志す方々を力強く支援するような、そんな働きができればいいなと思っております。

【委員】

会議に参加させていただいて、練馬区に限られた予算・人員の中で、高齢者のフレイル予防に関して、すごく力を入れているのが大変勉強になりました。

私自身は高齢者施設で長年、看護師として働いていて、介護士、看護師の人員の定着に大変困難を感じており、また、人員不足により個々人の生産性を向上させながら仕事していくことの困難さも強く感じています。これからも創意工夫をもって介護保険を有効活用して、区民に還元していくような姿勢をお願いしたいと思っています。

【委員】

社会福祉協議会として生活困窮者自立支援の窓口をしており、心身の状況、暮らし向きの話、家族との関係の話等、様々な相談があり、包括的に生活課題について受けとめるということが増々重要な社会状況になっていると感じております。

地域包括支援センター機能の充実というのは、大変大事なことだと思っており、連携を強化して、生活困難に直面している方に寄り添って支援できるような努力をこれからしていきたいなと思っております。

【委員】

益々、地域のつながりや、隣近所とのつながりが必要になってくると思われました。また、地域包括センターが27箇所に分けられたということで、細かく活動されることを期待しています。

【委員】

老人クラブ連合会は年々クラブ数が減っております。しかし、友愛の支え合いを行う団体であることを忘れずに、これからも堂々とアピールしていきたいと思っております。

【委員】

地域包括支援センターとしては、地域の方々に向けてのPRや、生活支援コーディネーターだけでなく、従事する職員一人一人のサービスの質を上げていかなければならないと感じています。生活支援コーディネーターがこれからどのように地域に根づいていくのか見届けていきたいと思っております。

【委員】

元気高齢者の社会参加の促進と、その活躍の場を作っていかなければならないと感じています。また、高齢者のデジタル格差の解消、元気高齢者の生きがい創出という点から、シニアのスマホ相談員の養成や派遣を行うスマホ相談員養成派遣事業にも注力していきたいと思っております。

【委員】

介護サービス事業者としては人員不足が大きな課題です。これからはAIやロボットなどを利用しながら対応していくことになると思いますが、AIやロボットを開発される方たちには、使いやすく役に立つような機器を作っていただきたいと思っております。

【委員】

重層的支援など国が示しているように、もう世帯毎の高齢者の介護だけでは済まない状況が見えてきて、とても切ない3年間だったのかなと感じております。次期では、具体的にそういう世帯を丸ごとみるように、この会議も変わってくるのだろうと考えております。

生活困窮者の方の社会参加の場の提供を行っており、参加者の方の心の変化には数年がかかる状況にあります。こうした方が笑顔になれるための議論がなされることを期待したいと思っております。

【委員】

地域住民の方や介護サービス事業者の職員の意見も聞きつつ、計画が策定されていることを学ばせていただきました。今後もより良いものができるものと思っております。

【委員】

高齢者のライフスタイルに合わせた新しいフレイル予防についても、継続して課題として出てくるのだと思っております。また、介護予防・住まい・生活支援を一体的に行うために、専門職も幅広く目を向けて役割を担っていく必要があるかなと思っております。

【委員】

練馬区は、事業所と積極的に意見交換してくれてありがたいと思っております。第9、10期と計画期間が進むにつれ更に厳しくなると思いますが、今後も事業所の立場から意見を申し上げたいと思っております。

【委員】

介護保険制度は、データに基づいて、需要と供給を見ていくことが大変重要であり、経営者としてもデータを経営に活かせれば、この介護保険事業の安定にお役に立てるのではないかと考えています。今後もぜひ一緒に考えさせていただく機会があればと思っております。

【会長代理】

第9期計画は、様々な問題が切迫しており、対応しなくてはならないことが露わになった計画だと思います。人の繋がりが失われてきたことが、介護職や医療職を希望する方が減ってしまったことに影響していると思いますし、それをどうやって回復をしていくのかが非常に大きな課題です。

区内では様々な機関や区民の方が色々な取組を行っています。それをうまく連携させてつながりを作っていくということが、第9期計画の大きなポイントではないかと思えます。社会福祉分野全体としても重層的支援という形でまとめて相談を受けるように動いておりますし、高齢者分野だけ見ても、第9期計画の目玉となっている生活支援コーディネーターが27人体制となり、様々な活動をされている方を掘り起こしてつなげていくということも非常に大きな課題だと思っております。

また、介護人材不足への対応についても、練馬区だけではなく国や東京都がそれぞれの役割を果たしていくということが必要です。練馬区では、人材研修センターを持っているという強みがあり、保険者としての取組は全国の中でも有数の取組であると思えます。そこに満足せず、介護職や医療職の方がより働きやすい職場づくりをしていくという先駆者になっていただけると大変良いかと思っております。

最後に、高齢施策担当部長より一言、お願いいたします。

3 閉 会

【高齢施策担当部長】

委員の皆様には毎回、貴重なご意見をいただき、本当にありがとうございました。一方的な意見が一つもなく、意見の後に提案をしていただき、行政の考えも述べさせていただけることが、この協議会ではとてもよかったなと思っております。

この3年間はコロナウイルス感染症の影響により介護サービス利用の控えがあり、それによるフレイル、孤立・孤独などの新たな地域課題というのが浮き彫りとなった期間だと考えております。

人と人との繋がり、それから地域での支え合いを基本にしつつ、皆様のご意見をいただきながら、第9期計画を作れたというのは貴重な経験になったと思っております。

第9期計画では、団塊ジュニア世代が後期高齢者となる令和22年を見据え、介護が必要となっても誰もが住みなれたこの練馬で安心して暮らし続けることができるように、地域包括システムを深化させて、さらに積極的に推進をして参りたいと思っております。

計画や事業は作って終わりではなく、まず活用していただき、そして作り上げていくものと私自身は思っております。ぜひ皆様のお力を貸していただきたいと思っております。

最後に、これまで当協議会の運営に携わっていただいた委員の皆様にご改めて感謝申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

【会長代理】

これもちまして、本日の第14回練馬区介護保険運営協議会を閉会します。

以上